

鎌倉女子大学における美術造形教育 —実践的な課題研究と指導方法について—

藤岡 孝充（教育学科・教授）・大河原 典子（児童学科・講師）
大沼 蘭（児童学科・非常勤講師）

1. 研究の目的

本研究は、鎌倉女子大学における図画工作系科目「図画工作①」「図画工作②」図画工作科教育法」「保育内容演習表現」等で共通して使用できる手引き書の作成を目的とする本年度から2年間の共同研究である。

教育学科と児童学科（子ども心理学科を含む）の図工系科目のカリキュラムは、共通内容で実施されており、指導目標も明確になっているので、担当教員によるばらつきは少なく、他の図号系科目とも系統的な授業内容の組み立てができています。

しかし、授業で使用するテキストは、市販教材のいろいろな部分を継ぎ合わせて利用しているため、課題にあった学習を進めるには、新たに資料プリントを作成してまとめる必要が生じる。また、課題が過密であり、学生の作業性が落ちているため、制作になるべく多くの時間をかけたいが、用具・材料の解説で時間を取られてしまうことも多くある。

このような状況を改善し、学生の学びの定着をより確実なものにするためにも、授業に有効なエッセンスを集めた本学独自の手引き書の作成が必要になっていた。

以上の理由から、学術研究所助成研究による本学学生の学びに合った見やすくわかりやすい教材開発を行うこととなった。

2. 研究計画

（1）平成28年度

- ① 小学校図画工作科の文部科学省検定教科書における構成と図版の比較分析
- ② 本学の「図画工作①」を中心にした授業の課題検討
- ③ 試作手引き書に掲載するためのわかりやすい図版の作成（外注）
- ④ 試作手引き書の構成と編集
- ⑤ 試作手引き書の印刷（600部）

（2）平成29年度

- ① 教員養成を行っている他学における同内容の科目実践の調査
- ② 29年度春 Semester に試作手引き書を学生に配布し、授業を実施
- ③ 授業終了後、試作手引き書を使用した学生の反応を記録
- ④ 課題ごとに27年度以前年度の問題点を整理（①との比較も含めて）
- ⑤ 手引き書の改訂及び編集作業
- ⑥ 手引き書の印刷（平成30年度に使用予定）

3. 研究経過（28年度）

- ① 小学校図画工作科の文部科学省検定教科書における構成と図版の比較分析

もともと図画工作や美術の教科書は、サイズが小さいのに図版ページいっぱい並べられているものがほとんどであった。1980年に現代美術社から出された『子どもの美術』という教科書は、人がものをつくるとはどういうことかを語りかける文章を多く使った教科書であった。採用がほとんどなかったため姿を消してしまったが、この教科書の影響を受けて、他の教科書も文章を多く入れるようになり、教科書の作り方を見直すきっかけになった。現在は、子どもたちの作品や活動をしている写真とイメージしやすい題材名、わかりやすい短い文章で、直観的に題材の内容が理解されるよう工夫されている。

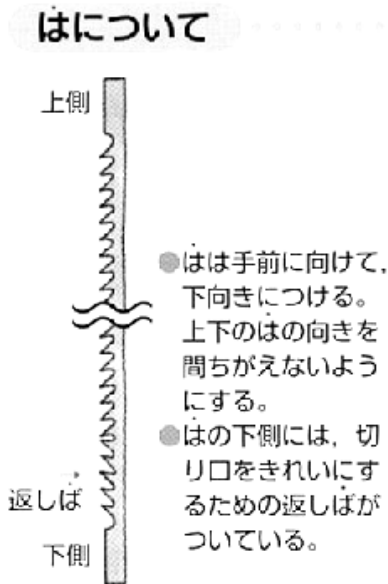
このように教科書も変化していく中で、出版社は前回の学習指導要領の改定時には3社あったものが、現行では日本文教出版と開隆堂の2社となってしまっていて今後の危惧されるが、この2社の現行の教科書の図版を比較分析することにした。

まず構成であるが、2社とも表現の領域の「絵に表す」「立体に表す」「工作に表す」「造形遊び」と「鑑賞」に分けた題材が設定され、主に見開き2ページで一つの題材が示されている。そして、巻末の4～6ページには、学習指導要領で示されている2学年ごとに扱う用具・材料と技法が解説されている。サイズは、開隆堂の教科書がA4サイズで、それに対して日本文教出版は、幅は同じだが縦が2cm短いので、開隆堂の教科書の方がレイアウトにゆとりがあり情報量が多く感じられる。

2社の教科書はイラストで描かれた材料・用具の解説が思った以上に多く載っていた。

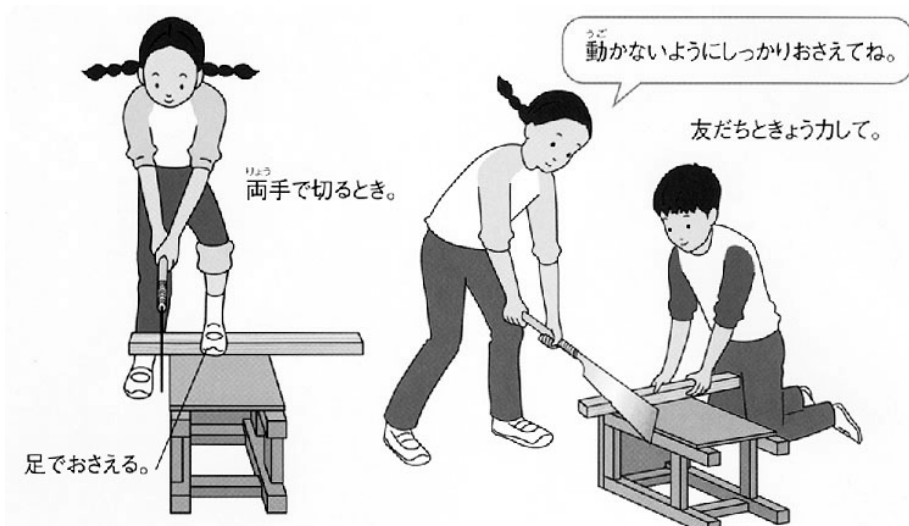
その中に2つ特徴的な発見があった。

まず、日本文教出版『図画工作5・6上』p.52に示されている電動糸のこぎりの「はについて」である。【図1】のように「返し刃」のイラストが教科書に初めて載ったことである。今までの教科書では、「返し刃」のある木工用の刃の説明はなかった。教員採用試験の問題にも出題されたことがあるが、刃の向きは一方向で説明されていて、アクリルや薄い金属を切る刃の説明となっていた。小学校では木工の用具として電動糸のこぎりを使用するのがほとんどであるので、その意味では画期的といえるが、このイラストは現物の刃とはだいぶ形状が違いわかりにくい。



【図1】 電動糸のこぎりの「はについて」日本文教出版『図画工作5・6上』p.52

一方、安全指導面での疑問点が残った図版があった。開隆堂『図画工作3・4上』p.45の「工具箱のこぎり持ち方と使い方」である。下の【図2】はそのイラストであるが、右の子ども2人は普通にズボンの裾を下した状態で作業をしているのに対し、左側の両手持ちで切っている子どもは右足の裾を膝まで折り曲げて肌が見せて作業しているのは、安全指導上理解しづらい。のこぎりも刃物であり、刃が足に当たればケガをすることもがあるので、木工などの作業には長ズボン着用という服装の指導も必要と考える。



【図2】 道具箱のこぎり「持ち方と使い方」開隆堂『図画工作3・4上』p.45

まとめると2社とも内容的には差はなく、どちらも利用しやすいものになっている。学習指導要領では2学年ごとのまとまりで指導内容が示されているが、教科書は各学年6冊あり、取り扱う材料は、発達段階を考慮して多岐にわたって活用例が示されている。中学や高校の美術ではほとんど教科書を使わない授業が行われているが、図画工作では教科書は教材としての重要度が高いといえる。

② 本学の「図画工作①」を中心にした授業の課題検討

①で行った小学校図画工作の教科書の比較分析を土台にして、現行の題材や材料・用具の見直しを行った。「図画工作①」は幼児造形の要素も取り入れるようにベーシックな造形表現の内容も盛り込んでいけるよう、安価で安全な日用品や廃材のさまざまな活用法の検討を行った。また、幼児の造形遊びと図画工作における造形遊びについて、発達段階の差による題材の扱い方の検討を行った。

③ 試作手引き書に掲載するためのわかりやすい図版の作成（外注）

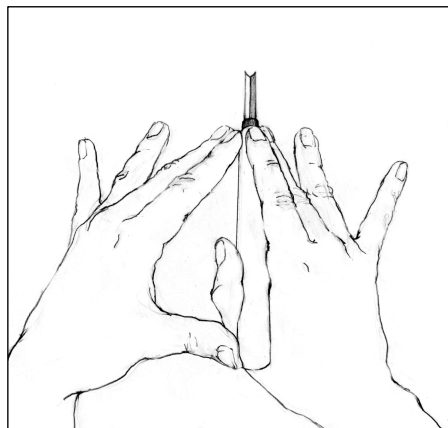
図版に写真を使うのは具体的ではあるが、教科書の中では、材料・用具の説明は【図1】【図2】のようにほとんどイラストである。これは、写真では余計な情報も多く含まれるため、かえって説明をわかりづらくしたり、意味が変わってしまうこともある。【図3】は日本文教出版『図画工作3・4下』p.52に掲載されている彫刻刀の彫り方の写真の図版であるが、刃先の向き（刃裏・刃表）が分かりにくいことと、彫っているような力の入れ方が伝わってこないので緊張感が感じられない。おそらくポーズをとって撮影したために動きがないのだろう。このように写真が伝えたいことを適切に伝えられていない例も載っている。

そこで、今回の手引き書では新たに芸大の美術教育研究室に協力を求め、できる限り意図



【図3】 彫刻刀の持ち方

日本文教出版『図画工作3・4下』p.52に
掲載されている写真



【図3】 サンプルの線画

研究協力者が、自分の手を見ながらこちらの
意図に合わせてデッサンしたもの。

を忠実に伝えられるよう余分な要素を削ぎ、必要な要素を強調して約50カットの線画で絵起こしを依頼することになった。【図4】は試作で描いてもらった線画で、右の親指で三角刀を押しながら彫るという彫り方である。こちらの意図に沿うよう何度も打合せを行って試作を作ってもらい、掲載できるものにした。

④ 試作手引き書の構成と編集

今回の手引き書の特徴は、「図画工作①」の手引き書として、幼児造形に共通する図画工作の題材や材料を工夫する、フルカラーで手書きのイラストを多く配置して、説明を易しく短くして視覚的に理解しやすいレイアウトを心掛けるようにする、他の図工系科目にも教材として使えるようにする、の3つのポイントで構成を考えた。

たとえば、他の図工系科目にも教材として使えるであるが、児童学科は2年生の「保育内容演習表現」で、モダンテクニックを使った歌の絵本を制作する。その時に、この手引き書で材料や技法の振り返りをすれば、制作が進めやすくなるなどがある。つまり、「図画工作①」はベーシックな図工科目であり、そのテキストとしての構成になっている。

(1)鉛筆デッサン

- ・よく見ることの面白さ

(2)モダンテクニック

- ・モダンテクニックの表現の広がり
- ・技法の種類と特徴

① スクラッチ

② クレヨンステンシル

③ フロッタージュ

④ バチック

⑤ スパッターリング

⑧ スタンピング

⑨ デカルコマニー

⑩ ストリング

⑪ シャボン写し

⑫ マーブルリング

⑥ ドリッピング・吹き流し ⑬ コラージュ

⑦ にじみ・ぼかし

・まとめ方（製本）

(3) 土粘土をつくる、土粘土でつくる

・「土粘土をつくる」土粘土という素材の特性を知る

・「土粘土でつくる」立体を作る(オノマトペ、塔)

(4)木工 ブローチの制作

・材料に合わせたデザイン

・レリーフの形に彫る

●材料・用具の解説

(1) 鉛筆、練消しゴム、画用紙

(6) 両刃のこぎり

(2) カッターナイフ

(7) 電動糸のこぎり、きり

(3) クレヨン・パス

(8) 紙やすり

(4) 水彩絵の具、パレット、水入れ

(9) 接着剤

(5) 彫刻刀

(10) いろいろな材料

4. 次年度に向けて

次年度はまず、試作の手引書を春semesterで授業がある児童学科（子ども心理学科を含む）の1年生に配布し、授業を行い、現行の教科書を使った今年までの授業との学生の反応や教授の変化を比較し、記録する。授業終了後にこれらのデータを分析し、次年度に正規版の作成のための新訂増補を行う。教育学科の学生には、秋semesterで配布し、同じようにデータを収集するが、正規版作成のスケジュールがタイトで教育学科の授業終了まで記録が取れないことも予測される。3年間の研究にすることが望ましかったのかもしれないが、使いやすい試作の手引書ができるよう残りの時間を使ってしっかりしたものにしていきたい。

参考文献

- 1) 日本造形教育研究会、2016、文部科学省検定済教科書『図画工作1・2上』開隆堂、28、42-45
- 2) 日本造形教育研究会、2016、文部科学省検定済教科書『図画工作1・2下』開隆堂、5、30、42-45
- 3) 日本造形教育研究会、2016、文部科学省検定済教科書『図画工作3・4上』開隆堂、8、14、22、30、31、34、42-45
- 4) 日本造形教育研究会、2016、文部科学省検定済教科書『図画工作3・4下』開隆堂、44、46、47
- 5) 日本造形教育研究会、2016、文部科学省検定済教科書『図画工作5・6上』開隆堂、46、47
- 6) 日本造形教育研究会、2016、文部科学省検定済教科書『図画工作5・6下』開隆堂、52、53、55
- 7) 日本児童美術研究会、2016、文部科学省検定済教科書『図画工作1・2上』日本文教

出版、48、49、52-56

- 8) 日本児童美術研究会、2016、文部科学省検定済教科書『図画工作1・2下』日本文教出版、26、27、52、55
- 9) 日本児童美術研究会、2016、文部科学省検定済教科書『図画工作3・4上』日本文教出版、2、3、48、52-55
- 10) 日本児童美術研究会、2016、文部科学省検定済教科書『図画工作3・4下』日本文教出版、34、40、50-57
- 11) 日本児童美術研究会、2016、文部科学省検定済教科書『図画工作5・6上』日本文教出版、52、53、55
- 12) 日本児童美術研究会、2016、文部科学省検定済教科書『図画工作5・6下』日本文教出版、54、55
- 13) 文部科学省、2008、『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版、61-65
- 14) 日本造形教育研究会、2007、『用具・材料のあつかい方 低学年』開隆堂、8-33、47、52-70、80-83
- 15) 日本造形教育研究会、2007、『用具・材料のあつかい方 中学年』開隆堂、8-10、14-28、42-60、64-76、80、88、87
- 16) 日本造形教育研究会、2007、『用具・材料のあつかい方 高学年』開隆堂、8、9、43-53、64-75、78、79、82-84、86、87
- 17) 相田 盛二、1996、『図画工作・美術用具用法辞典』日本文教出版、11-16、25、26、29-32、36-38、40、53、54、72-76、92-99、101-104、108-110、124、125、146、151、152、180、186、203
- 18) 金子一夫、2003、『美術科教育の方法論と歴史』中央公論美術出版、201、202
- 19) 安野光安、佐藤忠良2013、復刊『子どもの美術 別冊「絵の好きな子へ」』復刊ドットコム（オリジナル：現代美術社）、34、35
- 20) 福田 隆真（監）、2010、『美術科教育の基礎知識』建帛社、69-72、82、88、89、112、166-168、211
- 21) 花篤 実（監）、1999、『幼児造形教育の基礎知識』建帛社、62、79、103、104、113、114、116、122、190、191
- 22) 辻 康秀（編著）、藤岡孝充（共著）、2014、『幼児造形の研究』萌文書林、54-56、116-127、142、143、154-155、190、191
- 23) 京都市芸術大学教育研究会、2016、『美術資料 神奈川の美術』、5、6、12-15、24-26、44、59、74、75